

古仁屋高生が復旧支援

奄美南部 豪雨 4集落孤立続く

奄美大島南部の記録的豪雨で被災した瀬戸内町では4日、道路やライフラインの復旧が続いた。68世帯が住む同町蘇刈集落の孤立は2日ぶりに解消。同町の古仁屋高校生徒らもボランティアとして現地入りするなど、後片付けがようやく本格化した。

蘇刈集落に通じる県道は同日朝に仮復旧。緊急車両だけが通行できるようになり、消防車による給水が行われたほか、町の保健師が

高年齢者の健康状態を調べた。古仁屋高校の生徒らは約40人が同集落に入り、後片付けを手伝った。給水車から水を運んだり、泥につかった家財道具や畳を運び出すなどした。同校は蘇刈のほか、被害の大きかった嘉鉄や伊須など

の集落も含め、計100人がボランティアに参加した。

同町古仁屋の自宅も床下浸水したという3年生の納雅行さんは、「思った以上に被害がひどく驚いた。少しでも助けになれば」と話した。

断水は4日午後4時現在、蘇刈集落や加計呂麻島の一部など111世帯で継続。後片付けが進まない要因の一つになっている。蘇刈集落の隆司寿治区長は「とにかく早く水道を復旧してほしい」と訴えた。



2日ぶりに孤立が解消された集落で、後片付けを手伝う高校生ら
＝4日、瀬戸内町蘇刈

復旧やうかい路確保を進め、数日に孤立を解消したい」としている。

◆加計呂麻島ハーフマラソンを中止 瀬戸内町は4日、13日予定していた同マラソン大会を中止すると発表した。コース上で33力所のがけ崩れが発生、復旧のめどが立たないため。問い合わせは同町まちづくり観光課＝0997(72)1111

同町建設課は孤立が続く加計呂麻島の4集落について、「町道